

第1号

平成25年度

# 事業報告

- ・法人本部 (P.1~P.2)
- ・児童養護施設南山寮 (P.3~P.5)
- ・ルンビニー保育園 (P.6~P.8)
- ・特別養護老人ホーム南山の郷 (P.9~P.11)
- ・南山の郷デイサービスセンター (P.12~P.13)
- ・ケアハウス南山の郷 (P.14~P.15)
- ・小規模多機能ホームみなみやま (P.16~P.17)
- ・認知症グループホームみなみやま (P.18~P.19)

# 平成 25 年度 事業報告

## 法人本部

### 1. 計画の実施状況

社会福祉法人愛知育児院のテーマ「いのちの輝き」に則り、各施設の日々の業務にその精神がいかされるように法人の立場で点検、指導しました。いずれの施設（児童養護施設南山寮、南山ルンビニー保育園、高齢者施設南山の郷、高齢者施設みなみやま）も「人」との関わりが日々の業務であることを認識し、誇りと自信を持って業務に専念できるようバックアップしました。すべての施設が同じ敷地内にあることを利点に、愛知育児院最大の特徴である「世代間交流（施設間交流）」が日常的な行事として行われるよう、実践目標を立てました。また、127年の歴史を重んじ、現状分析のもと、愛知育児院の継承・発展を指標として事業を行ってきました。

#### (1) 理事、評議員

平成 25 年 8 月 8 日の評議員会において、新任理事 1 名、新任監事 1 名、重任役員 11 名が選任されました。また、同日の理事会において新任評議員 2 名を含む 25 名の評議員が選任されました。

平成 25 年 8 月 22 日の理事会において、理事長互選が行われ、4 期 8 年間理事長を務めた本田眞哉氏に代わり、寺西伊久夫氏が新理事長に選任されました。

#### (2) 規程などの整備

平成 25 年度 1 年間で次のような規程変更案を理事会、評議員会に提案し承認を得ました。まず、国の労働契約法、高齢者雇用安定法の改正に伴い、「臨時職員等就業規則」「継続雇用規程」の変更案を提案しました。また、「育児介護休業規程」も県の指導に従って改正しました。これからも、社会状況や愛知育児院の現状に合うよう迅速に各種規程を見直していきます。

#### (3) 経理

法人本部の収入は主に「経常経費寄附金収入」と「拠点区分間繰入金収入」に依るものです。また、事業活動支出は各施設の按分による協力により抑えられています。

平成 25 年度の経理上の最大のポイントは、法人所有の梅森坂の土地売却がようやく実現したことです。この売却益は、現在「設備整備等積立金」として計上されています。

#### (4) 広報活動及び情報公開など

愛知育児院の広報誌「南山の森」は、年2回の発行で、多くの方々に各施設の活動、日々の様子などを報告することができました。

情報公開については、年々その要望が強くなっておりますので、すでに開設しているホームページなどの媒体を通じ、事業内容や経理の内容の公開を行うよう準備しています。また、第三者機関による評価受審を各施設で実施する状況にあります。

#### (5) 地域社会との連携

愛知育児院は、南山町の町内会、老人会、子供会など地域社会と積極的に交流してきました。このような交流以外にも、各施設独自に地域社会との交流が行われています。高齢者施設による「認知症サポーター養成講座」、保育園による子育て支援事業「ルンビニー広場」などです。

最大の行事「ふれあいまつり」は、台風の接近により、残念ながら内部での交流に規模を縮小しての実施でした。

#### (6) 法人本部の組織強化

平成25年8月に常務理事が理事長に選任されたことを機に、法人事務長が常務理事に指名され、平成26年1月より法人に常勤事務職員が採用し、法人本部の機能強化が図られました。

## 2. 主な事業

### <会議など>

法人運営会議、法人連絡協議会、税理士経理点検（それぞれ月1回）

苦情解決委員会（年2回）、「南山の森」編集委員会、世代間交流委員会（随時）

### <年間の主な事業>

4月 辞令交付

5月 監事監査、理事会・評議員会（決算）、資産登記

6月 苦情解決委員会

7月 「南山の森」発行

8月 盂蘭盆会、理事会・評議員会

10月 ふれあいまつり

12月 報恩講

1月 理事会・評議員会（補正予算）、「南山の森」

2月 苦情解決委員会

3月 理事会・評議員会（予算）

### 3. まとめと今後の課題

平成 25 年度は、どの施設も特に大きなトラブルもなく、日々の業務をこなすことができました。ただ、社会状況にあわせて更なる発展を果たすためには、数多くの課題が残されています。国の方針による、児童養護の家庭的（地域小規模）児童養護施設設置や保育園の「幼保連携型認定こども園」への参画などが当面の課題です。これらの課題を施設と共に解決していきます。

従来各施設が法人を支える体制から、法人がリーダーシップをとりバランスよく法人全体が発展していく体制に徐々に移行していきます。

# 平成 25 年度 事業報告

## 児童養護施設南山寮

### 1、計画の実施状況

#### (1) 子どもの権利擁護についての取り組み

平成26年7月の第三者評価受審に向け、施設全職員による自己点検や人権擁護のためのチェックリストの活用、さらには権利擁護に関する施設内研修を開催し、子どもに関わる職員一人ひとりが権利擁護意識を高める活動に取り組みました。

また、発達障がいを抱えた児童に適切なケアサービスを提供すべく、外部より専門家を招聘しケースカンファレンスを実施しました。

名養連の性教育研修では、南山寮で実施した性教育の取り組みが、子どもの権利擁護の視点から実施されているとの高い評価を受けました。

#### (2) 家庭的養護推進に向けた取り組み

平成24年度に設置した2つの小規模グループケアユニットは、集団生活によるストレスの緩和に加え、職員との関わりの多さ〈マンツーマンでゆったりと関わる時間の増大〉による相乗効果が奏功し、子どもたちの心が安定し、落ち着いた生活を送ることができています。

厚生労働省および名古屋市所管課の要請により、全職員による話し合いの上、南山寮の家庭的養護推進15年計画を策定し、名古屋市に提出しました。

#### (3) 地域社会や関係機関とのネットワーク強化

南山寮の子どもたちを支援してくださる人的ネットワークがさらに広がり、平成24年に誕生した女子児童のヒップホップダンスチーム NANZaaaaN は、愛知県芸術劇場のステージで発表する貴重な機会を得ました。さらにはバンド活動、アフリカ音楽やピアノ演奏の体験など、児童の自尊感情が高まり、充実した達成感を得ることができる様々なチャンスを与えていただきました。

#### (4) 施設内設備の整備に向けて

大規模災害発生時の水ライフライン確保と地域への社会貢献を鑑み、地下水膜ろ過システムを導入しました。また、子どもたちの安全を考慮し、園庭のすべり台とブランコの下にゴムチップを敷設する工事を行いました。その他、ふれあいホールのクローゼット扉や音響機材、厨房の食洗機など経年劣化による修繕工事や機器の入れ替えも実施しました。

(5) その他

在日米国商工会議所および全日本仏教尼僧法団の助成金により、中高生対象の「山の家」を企画実施し、子どもたちに白銀の世界とウィンタースポーツの楽しさを体感させることができました。

2、入所児童数と職員数

- ・入所児童定員数 55名
- ・職員数 33名（直接処遇職員19名 間接処遇職員6名 非常勤8名）

【月別入所児童数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
幼児	8	8	9	9	11	11	11	11	11	11	11	11
小学生	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
中学生	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
高校生	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	53	53	53	53	54	54	54	54	54	54	54	54
ショートステイ								5	4	3	2	
一時保護		10	21	51	6		2	11			13	

(※ ショートステイ・一時保護は月間の延べ人数)

3、主な事業

(1) 会議及び行事

<月会議>

職員会議・リーダー会議・各フロア会議・給食担当者会議・給食審議会・進路指導会議（年1～2回）・予算検討会議（年1～2回）・セラピストとの懇談会（年2回）・児童相談所職員との懇談会（年1回）・防災会議（隔月）

<月行事> 誕生会・避難訓練・夕食会

<名古屋市児童養護連絡協議会の行事>

海の家（篠島）・福祉絵画展・自立支援研修・スポーツ大会（ソフトボール・野球大会）・児童福祉施設運動会・退所児童社会自立宿泊研修・フットサル大会

## (2) 月別行事実績

- 4月 入学式・入園式・東別院まつり・学級懇談会・小中学校授業参観・喫茶クラブ
- 5月 親子遠足(幼)・運動会(小)・保育参観(幼)・子どもサロン・修学旅行(中)
- 6月 自立宿泊研修・カルダモモ公演でのダンス発表・ケア交流(水族館)・子どもサロン・喫茶クラブ・子ども会ドッジボール大会
- 7月 授業参観・七夕会(幼)・自立支援研修・名養連海の家・山のくらし
- 8月 中日子ども村・子どもサロン・喫茶クラブ・ケア交流(かき氷)・名養連スポーツ大会・幼稚園夕涼会・盂蘭盆会・法人総合防災訓練・絵画展表彰式
- 9月 自立支援研修・喫茶クラブ・ケア交流事業・子どもサロン・子ども会ソフトボール大会・ウォーク寄附金贈呈式・名養クラブJCキャンプ・体育大会(中)・授業参観
- 10月 市指導監査・自立支援研修・施設運動会・幼稚園運動会・ミニふれあいまつり
- 11月 子ども会親子ドッジボール大会・幼稚園父兄参観日・学芸会(小)
- 12月 善意銀行サンタ来寮・東別院子ども報恩講・ビンゴ大会・子ども会クリスマス会・フットサル大会・喫茶クラブ・もちつき・大掃除
- 1月 新年の集い・初詣・キッズ雪遊び
- 2月 中高生山の家・自立宿泊研修(スキー)・ポートボール、ドッジボール大会・子どもサロン・小学校授業参観・学級懇談会・幼稚園お遊戯会・子ども会お別れ会
- 3月 幼稚園お別れ会・卒寮生を送る会・南山スプリングカーニバル・旅立ちセミナー・テーブルマナー教室・卒業式・子どもサロン・法人総合防災訓練

## (3) 実施・導入および改訂事項

- ① 施設の小規模化・地域化に向けた取り組み
  - ・家庭的養護推進15年計画の策定
  - ・小規模グループケア増設、地域小規模児童養護施設の導入に向けた検討
- ② 入所児童の権利擁護に鑑み、適切なケアを考える学習会を開催
  - ・権利擁護をテーマにした施設内研修の開催
  - ・発達障がいを抱える児童への適切な対応を学ぶケースカンファレンスの開催
- ③ 権利擁護に向けた取り組み
  - ・第三者評価に向けた自己評価の実施(6月)
  - ・人権擁護のためのチェックリストの活用(2月)
- ④ 中高生対象の「山の家」(スキー・スノーボード教室)

・在日米国商工会議所および全日本仏教尼僧法団からの助成金により、  
おんたけ

スキー場にて1泊2日の「山の家」を企画実施

⑤ 工事・物品購入等

・園庭遊具ゴムチップ敷設工事（5月） ・幼児棟フローリング張替工  
事（6月）

・ふれあいホール扉の入替え工事（7月） ・樹木剪定（7月）

・事務所コピー機入れ替え（7月） ・厨房食器洗浄機故障による入替  
え（1月）

・ふれあいホールランプ入替え（3月） ・西側門扉入替え（3月）

・事務所PC購入（3月） ・事務所机・キャビネット入替え（3月）

#### 4、まとめ

社会的養護施設の第三者評価受審義務化に伴い、平成26年7月に受審予定となります。入所児童の権利擁護を第一義とし、自立に向けての心理社会的成長を多角的に支援すべく、児童養護施設運営指針に照らしながら、施設のハードウェア・ソフトウェア・ヒューマンウェアの機能強化にさらに衷心を重ねていく所存です。昨年度名古屋市に提出した家庭的養護推進15年計画の見直しを随時図りながら、施設の小規模化と地域化をどのように具体化するか、全職員で検討を進めていきたいと考えています。また、市の施設機能強化推進事業や寄附金・助成金を利用して、子どもたちへの安心・安全の保障、自立に向けた様々な体験や学びの機会の提供、そして大規模災害への備えなど、子どもたちの豊かな育ちと施設整備の推進に専心します。



# 平成 25 年度 事業報告

## 南山ルンビニー保育園

### 1、 計画の実施状況

(1) 子どもの発達過程と保育の視点を明確にしながらのカリキュラム設定

○同年齢であっても同じ速度で発達することはないのが子どもです。どの年齢においても一人ひとりの発達過程を把握し、その段階にあわせたグループ別保育を取り入れました。同じ目標であっても保育内容をそれぞれの子どもの発達に合わせることで、子ども一人ひとりが充実感を感じることができる活動ができました。

○乳児保育においては、保育士との関係をしっかり作りながら、清潔で安全な快適な保育環境のもと、心身の発達状況や生活リズムを把握して一人ひとりに対応しました。

○幼児保育においては、保育士との信頼関係を基に、子ども同士が主体的に関わりながら、個性を認め合って活動することの楽しさが経験でき、「幼児期の教育」を視野に入れたカリキュラムを設定しました。

○障がい児保育については、一人ひとりの発達状況を理解し、適切な援助ができるよう臨床心理の専門家をスーパーバイザーとして迎え、ケース検討会の充実を図りました。子どもだけの問題ではなく、家族との関係性も含めた細やかな対応について検討ができ、適切な発達援助へつなぐことができました。

(2) 地域の子育て支援

○こどもの心身の発達を保護者と友と共に喜びあえるような情報の発信に努めました。クラスだより（月1回）に加え、その日の保育のエピソードを紹介する「号外」により保育内容を共有する機会が増えました。

○クラス懇談、個人懇談の開催、育児相談を随時受け付けました。

子育てに不安を抱えている保護者の気持ちに寄り添うことができました。

○地域子育て支援（ルンビニーひろば）…未就園児親子対象

月に2回、子育て講座、手作りおやつ、運動あそびなどを行いました。南山寮の地域交流スペースを使用することにより、より充実した講座ができました。園庭開放は曜日・時間等定着したため、お友達と誘いあって遊びに来てくださる方が増えました。見学时や電話にて随時育児相談、発達相談がありました。

(3) 世代間交流を特色とした幅広い保育の実践

○お互いに負担にならない交流を心がけ、園児を少人数グループに分け実践しました。小人数になったことにより高齢者施設職員と保育士にも余裕ができ、全体に行き届いた、ゆったりとした楽しい交流ができました。

○デイの改修工事中、保育園の「ふれあいホール」を使ってデイのサービス提供を

していました。同じ空間で生活をするにより、ご利用者の方と子どもたちが自然とかかわる姿を見ることができました。職員同士も連携して交流のお手伝いができるようになり、「世代間交流」の内容も深まりました。

## 2、利用実績

クラス 月	たんぽぽ 0歳児	チューリップ <sup>o</sup> 1歳児	マーガレット 2歳児	ひまわり 3歳児	さくら 4歳児	ゆり 5歳児	合計
4月	10	23	23	24	26	28	134
5月	13	23	23	25	26	28	138
6月	13	23	23	25	26	28	138
7月	14	23	23	25	26	28	139
8月	14	23	23	25	26	28	139
9月	16	23	23	25	26	28	141
10月	17	23	23	25	26	28	142
11月	17	23	23	25	26	28	142
12月	17	23	23	25	26	28	142
1月	18	23	22	25	26	29	143
2月	18	23	22	25	26	29	143
3月	18	23	22	25	26	29	143
計	185	276	273	299	312	339	1684

## 3、主な事業

### (1) 保育事業

- 産休育休明け入所予約・・・年間6人枠。キャンセル待ち12名。
- 障がい児保育・・・・・・・・中度3名、軽度1名が入所しています。
- 休日保育・・・・・・・・定員10名
- 特別教室・・・・・・・・たいそう教室・英語であそぼう（3歳以上）  
音楽教室・お茶教室（5歳児クラス）

### (2) 交流事業

南山の郷との定期的な交流

- ・各高齢者施設と定期的な交流をもちました。

年長児の祖父母との交流

- ・敬老のお祝い会にご招待して、楽しく過ごしていただきました。

### (3) 子育て支援事業

- ルンビニーひろば（月2回 育児相談・講演会・ふれあい遊び手作りおやつなど）

○園庭開放（毎週水曜日10時30分～12時）

○電話育児相談随時

○保育園見学と入所システムの説明

## 4、その他

### （1）行事

- 4月 入園進級式・お花見散歩・花まつり
- 5月 こどもの日のつどい・親子遠足・クラス懇談会・プラネタリウム見学(年長)
- 6月 歯科検診・歯みがき指導
- 7月 たなばた会・なつまつり・プール開き・お泊り保育(年長)
- 8月 カレークッキング
- 9月 防災訓練・敬老の日の集い・園児健康診断
- 10月 運動会・秋の遠足
- 11月 人形劇観賞(児童館)・七五三のお祝い会・保育参加（2歳児以上）
- 12月 報恩講(年長・東別院)・クリスマスお楽しみ会・年忘れ会
- 1月 初詣・餅つき・クラス懇談会
- 2月 豆まき・ひなまつり会
- 3月 お別れ遠足(年長)・お別れ会・園児健康診断・卒園式

保健衛生・・・身体測定（毎月）・避難訓練（毎月）・ぎょう虫検査（年1回）  
職員健康診断（年1回）・職員検便（年2回）

### （2）職員会議および研修

会議：職員会議・リーダー会議・クラスケース会議・給食会議・行事企画会議

研修：名古屋市子ども青少年局・全国私立保連園連盟・名古屋民間保育園連盟

名私保育士会・名古屋保育士会・昭和区保育協会・昭和区保育者の会

その他保育研究団体主催の研修会に参加。

園内研修・・・ケース検討会（年6回）、「保育新システムの理解」（通年）

## 5、まとめ

平成25年度は、子どもの発達過程を見直し、それぞれの発達にあった課題の設定や保育実践に心がけました。全クラスが複数担当で職員を配置できたことにより、発達段階に合わせたグループ保育が可能になりました。10～12人前後のグループ保育は子どもの活動状況や心の状態が把握しやすく、子ども達にとって満足度の高い保育が実践できました。また異年齢児保育にもグループ保育を取り入れました。グループが少人数であるため、年上の子どもは自分のすべきことがわかり、年下の子どもと深く関わることができました。クラスの枠を超えて保育士同士が保育の目的や内容を理解しあう、これもグループ保育の成果でした。お互いに自分の保育を振り返

り、さらに発展できたことに大きな意味がありました。

「世代間交流」については、デイサービスとホールを共有した数日間で、ご利用者の方や子ども達の柔らかな表情から、改めて交流の大切さを感じました。交流内容も習慣化しないように職員同士が創意工夫をして今後も進めていきたいと思っています。

国の推奨している「幼保連携型認定子ども園」や保育の新システムについては、多方面からの情報を集約している段階です。今後は「幼保連携型」になるのか「保育所型」になるのかを新システムの状況を見ながら検討していく必要があります。保育室面積・園庭面積・職員の所有資格等「幼保連携型」へ移行する条件をクリアしていますので移行も可能です。どのような制度であっても「主体は子どもにある」ことを念頭に、大切な幼児期をいかに豊かに過ごせるかを考えていきたいと思っています。

# 平成 25 年度 事業報告

## 特別養護老人ホーム南山の郷

### 1. 計画の実施状況

#### (1) グループケアの充実によるケアの個別化推進

良好な環境や人間関係の中で生活ができる環境整備に継続的に取り組んでいます。職員は所属するグループ内だけではなく他のグループのご利用者にも対応し、多職種とも連携しながら重度化のご利用者が増加する状況に、全体で対応できる介護体制づくりに努めています。

環境面では、ご利用者の重度化に伴い、食堂内での見守りを強化できる環境への改善として、2階食堂のレイアウトの変更および骨折予防に対応する床材への張り替えなどの改修を行い、ご利用者の安全確保と職員の業務の効率化を図りました。

#### (2) ケア内容の再点検とケアプランの充実

ご利用者本人やご家族がサービス担当者会議に参加して頂く体制をとり、ニーズの把握やサービス提供のあり方を検討してきました。また、各種委員会や会議の中で個別の課題について、職種間で連携し問題を解決する体制の定着化に努めました。

タイムリーな情報の共有と、嘱託医、歯科医師、歯科衛生士、理学療法士など、施設外のスタッフとの連携は強化されてきていますが、まだ十分な活用には至らず引き続き活用の徹底に取り組めます。

#### (3) 食事内容・提供方法改善の推進

栄養プランの作成、給食会議や厨房会議などで、食事内容や提供方法の改善課題の検討および改善の実施や、食事携帯の見直しやソフト食の工夫に継続的に取り組んできました。

また、嚥下状態や咀嚼の良くないご利用者に対して、サービス間の食事形態の統一化、食事の介助方法・姿勢保持の見直しなど、言語聴覚士の協力を得ながら個別に対応してきています。更に、歯科医や歯科衛生士との更なる連携の下、食事の摂取について多角的に取り組んできています。

#### (4) 職員の資質の向上と職場の活性化

前年度に引き続きより良い介護・技術向上を目指し、施設に外部講師を招き一年を通して介護基礎研修・役職者研修を実施し、職員・職種間の連携を意識した質の向上に努めてきました。

職員対象の施設内研修に、ご利用者家族をはじめ一般の方や関連事業所にも案内を出し、参加していただきました。

#### (5) 経営の安定、安定したサービス提供

平成 25 年度も収入の安定化と法令遵守に力を入れ取り組みました。収入の安定化を図るため、毎月の経営会議等で実績を把握し、課題と解決策を整理し迅速な対応を心がけ、各サービス間での調整や連携を意識し強化することで、高齢者施設全体を通しての経営の安定と、ご利用者に必要なサービス提供がスムーズに行なえるよう取り組みました。

また、サービス提供にかかわる適用基準については、要件や体制の確認を随時行ない、法

令を遵守する運営を行いました。

## 2. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
特養	79.4	79.1	78.7	78.4	79.5	78.8	78.3	78.7	78.3	79.4	79.4	80.0	79.0(98.7%)
短期	20.6	21.1	21.8	21.5	22.5	22.9	22.7	21.4	20.5	21.8	22.1	22.4	21.8(109%)
居宅	87	87	82	83	85	85	82	82	83	85	78	75	82.8

※定員:特別養護老人ホーム（80名）短期入所（20名）

※特別養護老人ホーム・短期入所：1日あたりの利用人数

居宅：月あたりの利用（登録）人数

※平成25年度平均要介護度 介護老人福祉施設 3.97

短期入所生活介護 3.04

## 3. 主な事業

(月行事)

会 議：職員会議、経営会議、連絡調整会議、リーダー会議、グループ会議、給食会議、厨房会議、看護職員会議、事務所会議、デイサービス職員会議、居宅職員会議、サービス担当者会議、委員会連絡会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、入退所検討委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、認知症対応委員会

行 事：お楽しみ会、日曜レク、大正琴クラブ、音楽クラブ（保育園合同）、リフレクソロジー、売店、移動パン屋、理美容、体重測定、喫茶（あかね会様、南山寮生様）、生け花、抹茶（あかね会様）、別院巡回法話、老いと病の相談員様、大谷高校ボランティア、和顔の集い（馬場様）、傾聴ボランティア（こころん様）

(年間行事)

4月 花見

5月 春の運動会

6月 名古屋市輪投げ大会、役職者研修

7月 七夕、介護基礎研修

8月 盆踊り、盂蘭盆会、名古屋市情報伝達訓練、総合防災訓練、介護基礎研修

9月 全館清掃（床・窓）、敬老会、職員健康診断、役職者研修

10月 名古屋市老人ホーム運動会、2F食堂改修工事、介護技術研修

- 1 1月 名古屋市老人ホーム作品展、インフルエンザ予防接種、介護技術研修、役職者研修
- 1 2月 報恩講、餅つき、大掃除、年忘れ会、正月花（生け花）、介護技術研修
  - 1月 初釜、初詣、介護技術研修
  - 2月 介護技術研修
  - 3月 職員健康診断、防災訓練、全館清掃（床）、新人職員研修、介護技術研修

#### 4. まとめ

施設および在宅のご利用者の状況は、ますます重度化し医療依存度も高くなってきているため、個別対応が求められています。また、認知症や精神疾患等のご利用者への対応も複雑になってきているため、より専門的なケアや職員、職種間の連携と体制づくり、ご家族との関わり、施設内外の医療機関等との連携について具体的に実施していく必要があります。

また、来年度以降の介護保険法改正および介護報酬改定に向け、ケアサービスの見直しと居室の準個室化を含めたハード面の改修検討が必要です。

前年度からの介護力向上講習の取組みにより、ご利用者の意識レベルや運動量が向上し、生活やケアの質も向上したことに伴い、施設内での法定感染症（インフルエンザ、ノロウイルス、O157）の発生はありませんでした。

# 平成 25 年度 事業報告

## ケアハウス南山の郷

### 1. 計画の実施状況

#### (1) ご利用者へのサービス提供体制の充実

定期的に懇談会の場やアンケートなどによりご利用者の声を把握しながら、食事の提供方法の

見直し、居室設備の定期点検・修繕、娯楽備品の設置など、ご利用者が安心して快適に過ごせる

ようサービスの改善に努めています。また、日常生活相談だけでなく介護認定から各種の書類

の申請に関わる相談・代行などにも幅広く対応をしています。

#### (2) 健康管理の推進強化

ご利用者の身体レベルの低下や入院は年々進んでいる傾向にあります。毎月身体測定の実施、かわな病院・坂井歯科医院と協力医療機関として契約するなどして予防措置も含めて医療体制の強化を図っています。また、服薬ができない方のために、かかりつけ医や薬局との連携を図り、安全に確実に服薬できるように施設で服薬管理する体制にしています。

また、緊急時の速やかな対応の為に、日常の状態を定期的に把握できるように病状管理のため

のシートを作成し、適時更新しながら職員間の情報共有と特養夜勤者との連携に努めています。

#### (3) 個別支援の推進

病状・身体状態の悪化や認知症の出現により、何らかのサービスが必要なご利用者が増えてき

ています。介護計画を立案し定期的にカンファレンスを開き個別のケースについて検討し、ケア

ハウスでの生活が継続できるよう支援しています。介護サービスの必要性に応じて、小規模多機

能ホームみなみやまと連携しながら生活の安定に努めるなど、関係機関とも連携を図り積極的に

医療や介護保険サービスの利用を進めています。また、管理栄養士による栄養・健康管理の維持・

向上に努めています。

#### (4) 食事の提供の充実

ご利用者懇談会やアンケート、また、個別の嗜好調査などの結果を給食会議や厨房会議などへ報告し改善策を検討する流れを整備しています。ご利用者の声を反映しながらひとつひとつメニューを変更するようにしています。利用者懇談会の席に栄養士が出席し、食事に対



するご利用者からの要望や質問に直接対応させて頂き、顔の見える関係づくりに努めています。

## 2. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初 人数	30	30	30	30	30	28	30	29	30	30	30	30

### 3. 主な行事

#### <会議等>

毎月定例：職員会議、カンファレンス、給食会議、感染症対策委員会、事故防止検討委員会、非常災害対策委員会

#### <月間行事>

- ① 入居者懇談会・・・職員と共に生活改善や諸行事の意見交換の懇談会
- ② 月の定例活動・・・絵付け教室、カラオケ会、ビデオ鑑賞会、喫茶会、  
内科往診2回（希望者）
- ③ 法話会・・・毎月1回実施
- ④ 施設間交流行事・・・児童とのレクリエーション行事、共同外出会、園芸交流

#### <年間行事>

4月	お花見会	10月	1日旅行 ふれあいまつり
5月	外食会	11月	メイクセラピー
6月	輪投げ大会	12月	年忘れ夕食会、餅つき
7月	七夕会	1月	初詣、初釜
8月	鰻の日、防災訓練	2月	節分
9月	秋刀魚の日、南山学園 文化祭	3月	雛祭り会、防災訓練 梅見

### 3. まとめ

年々ご利用者の高齢化、重度化がますます進んでいます。要介護認定を受けている方の割合も増加傾向にあり、同時に要支援の方の重度化も進んでいます。現行スタッフのみでは対応が困難となる場合も多くなり、法人内の事業所間の連携や外部サービスとの連携を図りながら、ケアハウスとして、どこまでサービスが提供可能なのかを工夫、模索していく必要があります。

# 平成 25 年度 事業報告

## 認知症グループホームみなみやま

### 1. 計画の実施状況

#### (1) 「権利的擁護」の認識とサービス向上

定期的にモニタリングを行い、ご家族と支援内容の確認は行うことができましたが、ご利用者の施設での生活支援が主になり、ご家族の意向については聞き取りが不十分でした。今後は、ご家族の意向が反映出来るように意見交換の場が設けられるようにしていきます。

#### (2) 介護に関わる知識・技術の向上と統一

職員の内部・外部研修への参加を促し、介護に関わる知識の向上を図りました。また、学んだ知識・技術の実践の中で、対応の統一が出来るようカンファレンスを行い、介護計画案を作りました。

#### (3) 身体機能と生活機能の維持

日常生活の中で今出来る事を大切にしながら、趣向にあった個別ケア（家事支援等）を行いました。

#### (4) 地域等との交流の促進

認知症の方が住み慣れた環境で、地域の方々に見守られながら過ごせる地域作りの為、施設職員にて認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々に認知症に対する理解と対応方法等について勉強会を実施しました。今後も認知症の方への対応だけではなく、家族の方が介護しやすい環境作りを推進して行きます。

#### (5) ご利用者のご家族との交流・連携

ご利用者の普段の様子を見ていただけるように、ご家族との交流会を行いました。昼食を、ご利用者、職員と一緒に食べていただくことにより、職員とご家族との交流も図ることができました。また、外出行事では、ご家族に水族館と一緒に参加していただき、親子水入らずの時間を持つ手助けができました。今後もご利用者のご家族のニーズの把握に努め、交流・連携を行っていきます。

#### (6) 職員間連携と状況把握を意識した職員間の声掛け

朝・夕の申し送りにより、ご利用者の状況を職員間で共有が出来るよう努めました。業務の状況把握についての職員間の声掛けに対しては、徹底出来ていない面もありましたので、会議等で職員間の声掛けの大切さを再認識します。

### 2. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
定員 (18名)	18	17.4	17.2	17.5	17.1	17.4	16.5	17.5	16.7	17.3	17.7	17.6	17.3 (96.2%)

※上記、1日あたりの利用人数

※平成25年度平均要介護度＝2.63

### 3. 主な事業

(月行事)

会 議：経営会議、給食会議、委員会連絡会議、サービス担当者会議、運営推進会議、グループホーム職員会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、認知症対応委員会、研修委員会

行 事：誕生日会、喫茶外出、外食外出、手作り昼食、手作りおやつ、理美容、体重測定、個別レク

(年間行事)

- 4月 花見(桜)、生け花
- 5月 菖蒲湯、母の日、BBQ(南山寮交流)
- 6月 花見(紫陽花)、父の日
- 7月 七夕会、花火、土用の丑
- 8月 盆踊り、スイカ割り
- 9月 お月見、敬老会
- 10月 秋刀魚の日、ハロウィン、ウクレレ慰問
- 11月 陶芸教室
- 12月 家族会、ゆず湯、クリスマス会、餅つき
- 1月 初釜、初詣、書初め、新年会
- 2月 節分(豆まき)
- 3月 ひな祭り、花見(梅)

### 4. まとめ

今後も、ご利用者・ご家族・職員との密接な関係作りに努め、問題の把握とその方にあった支援の提供を行います。また、開所時から利用していただいているご利用者の中で、医療依存度が高い方が徐々に増えてきている為、安心・安全に施設で過ごしていただけるように、医療機関との連携もより密に行っていきます。

# 平成 25 年度 事業報告

## 小規模多機能ホームみなみやま

### 1. 計画の実施状況

(1) 事業の安定した運営と適切なサービス提供の継続

安定した運営が出来るよう、毎月の実績を把握し、迅速な対応を心掛けました。また、サービス提供にかかわる適用基準については、体制の確認を行い法令を遵守する運営を行いました。

(2) 在宅での生活が維持できるよう個々のご利用者に合わせた支援

定期的なケアカンファレンスや連絡帳等、日々のご家族との報告・連絡により、ご利用者・ご家族との綿密な関係を作ることができました。

(3) 各部署との連携

各サービス間での調整や連携を意識した対応により、ご利用者に必要なサービス提供がスムーズに行えるように取り組みました。各部署との交流行事については、連携が円滑に行えなかった為、今後の課題として担当者調整しながら取り組んでいきます。

(4) 地域の社会資源を把握

住み慣れた環境で、地域の方々に見守られながら過ごせるように、地域の行事への参加を行いました。今後も地域の社会資源を活用できるように把握に努めていきます。

(5) 個別レクリエーションを充実

ご利用者の趣向にあったレクリエーションの提供ができるように、普段の生活の中からニーズの把握に努め、要望にあったサービスの提供を行うことができました。

### 2. サービス別利用実績（賃貸住宅含む）

#### <小規模多機能ホーム>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
登録	24	23	24	23	25	25	23	22	22	24	24	23	23.5
通い	14.1	13.8	14.1	13.6	14.4	15	13.2	12.8	13.3	13.5	14.1	14.4	13.8
泊まり	5.1	5.4	6.2	5.9	5.9	7.6	6.1	5.8	6.5	6.5	7.1	7.9	6.3
訪問	5.8	5.8	6.1	6.1	6.4	8.4	7.4	6.1	7.2	7.4	7.2	6.4	6.7

※登録: 25名

※定員=通い: 15名(一日)、泊まり: 8名(一日)

※平成25年度平均介護度: 2.44

#### <賃貸住宅>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
定員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

※定員: 6名

※要介護状況＝自立（2名）、要支援1（2名）、要介護1（2名）

### 3. 主な事業

（月行事）

会 議：経営会議、給食会議、委員会連絡会議、サービス担当者会議、運営推進会議、小規模職員会議

委員会：非常災害対策委員会、個人情報保護委員会、衛生委員会、事故防止検討委員会、サービス向上・業務改善委員会、感染症・食中毒予防対策委員会、身体拘束解消委員会、褥瘡予防対策委員会、認知症対応委員会、研修委員会

行 事：誕生日会、喫茶外出、外食外出、手作り昼食、手作りおやつ、理美容、体重測定、個別レク

（年間行事）

- 4月 花見（桜）、生け花
- 5月 菖蒲湯、母の日、BBQ（南山寮交流）
- 6月 花見（紫陽花）、父の日
- 7月 七夕会、花火、土用の丑
- 8月 盆踊り、スイカ割り
- 9月 お月見、敬老会
- 10月 秋刀魚の日、ハロウィン、ウクレレ慰問
- 11月 陶芸教室
- 12月 家族会、ゆず湯、クリスマス会、餅つき
- 1月 初釜、初詣、書初め、新年会
- 2月 節分（豆まき）
- 3月 ひな祭り、花見（梅）

### 4. まとめ

ご利用者の認知症の状態も進んできている為、出来るだけ長く安心・安全に住み慣れた地域（自宅）で生活が出来るように、社会資源を十分に活かせるような具体的な方法を見直していきます。

# 平成 25 年度 事業報告

## 南山の郷デイサービスセンター

### 1. 計画の実施状況

#### (1) 快適に過ごしていただけるような環境整備の推進・整理整頓

近年デイサービスの利用目的は多種多様化しています。サービス内容（ソフト面）での個別化はもちろんですが、実際に過ごしていただくホール（ハード面）の重要性から、ホールの整備に着手しました。以前にはなかった個のスペースを新設（堀こたつ、開閉式の個室など）し、気の合う方同士で手作業をしたり、男性のご利用者だけで過ごす場所を提供したりと、従来のホールでは実現が難しかった用途が広がっています。

また、中庭をはさんで保育園児の姿が見えるようになったことで、ご利用者同士での会話も増え、日常的な交流行事の様子がみられました。新しくなったホールを利用者さんも褒めて下さいます。いつまでも気持ちよく利用していただけるよう今後も環境整備・整理整頓の推進を行います。

#### (2) 社会資源活用の推進

限られた職員数のなかでは、ご利用者の個々のニーズを引き出す事は出来ても、それを実現することがなかなか容易ではないため、地域の社会資源として様々なボランティアの方々にご協力いただけるようになりました。ゆっくりと寄り添って話を聞いて下さる「傾聴ボラ」（昭和区社会福祉協議会）、個々の趣味に基づいた「詩吟」「絵手紙」「囲碁」「メイクセラピー」「理美容」や年に一度しめ縄をご利用者と一緒に制作して下さる「天白川で楽しみ隊」、毎月のご利用者の誕生会で生花を準備下さる「花たち」等、日ごろから当センターの運営方針を理解していただいたうえで、沢山の力をお借りしています。このご縁は今後も大切に育てていきたいと考えています。

#### (3) 事業の安定した運営

ご家族や介護支援専門員からの相談に対し、実際どのような支援が出来るのかを一緒に検討し、個別的な対応を心掛けました。また年間を通じて利用予定人数と実利用人数を毎日記録化し、臨時利用の可否などがどの職員でもすぐに対応できる体制づくり、日々変動する空き曜日の情報共有を図り、問い合わせに迅速に対応し新規利用契約につないでいきました。

また、重度認知症や医療依存度の高いご利用者の受け入れも随時行い、職員の専門性を高めることに努めました。受け入れ直後は大変ですが、在宅で頑張っているご家族の支えになることができるサービスであることを職員会議の場などで伝え、職員の奮起を促しました。

インフルエンザなどの感染症も平成 25 年度は発生しなかったことも安定した運営につながった要因です。

## 2. 利用実績 (月あたりの利用人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
27.0	26.4	27.0	27.3	27.6	29.5	29.7	27.4	26.8	27.1	26.4	27.5	27.5

(平均稼働率：80.9%)

\*定員：通所介護 (34 名)

\*平均介護度：2.42

## 3. 主な事業

(月行事)

会 議：全体職員会議・職員会議・経営会議・給食会議・ケアカンファレンス委員会連絡会議

委員会：非常災害対策委員会・個人情報保護委員会・衛生委員会・事故防止検討委員会・サービス向上業務改善委員会・感染症食中毒予防対策委員会・身体拘束解消委員会・褥瘡予防対策委員会・認知症対応委員会・研修委員会

行 事：保育園交流 (全体・小集団)・保育園合同誕生日会、世代間交流 (寮喫茶) 外出行事 (買い物・喫茶・興正寺・東山公園) 季節料理・食事会・おやつ作り・作品づくり・メイクセラピー、理美容・詩吟・絵手紙

(年間行事)

- 4月 花見外出・はなまつり
- 5月 菖蒲湯・畑作り
- 7月 七夕会
- 8月 夏まつり・盆踊り・防災訓練
- 9月 敬老会・檜湯
- 10月 運動会・秋刀魚
- 11月 ホール改修工事・ボランティア慰労会
- 12月 ボランティア慰労会・餅つき・クリスマス会・しめ縄づくり
- 1月 初釜・初詣
- 2月 節分・そば打ち
- 3月 ひなまつり・保育園卒園祝い・防災訓練

## 4. まとめ

今後重度認知症や医療依存の高い高齢者が地域で増えることが想定されます。利用者はもちろん介護しているご家族の支えとなることができるデイサー

ビスとして地域に認知され、安心して利用いただけるよう、より一層の専門的な知識の習得や職員間の連携、開かれた施設づくりが必要と思っています。